



| | |
|--------------|---|
| Title | 漢字圏出身者向けの新たな言語サービスとしての「やさしい日本語」：漢字で表記される語彙に注目して |
| Author(s) | ウー, ワイシェン |
| Citation | 大阪大学言語文化学. 2011, 20, p. 117-128 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/77798 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

漢字圏出身者向けの新たな言語サービスとしての「やさしい日本語」

—漢字で表記される語彙に注目して—*1

ウー・ワイシェン**

キーワード：言語サービス、「やさしい日本語」、漢字で表記される語彙

Recently, *Yasashii Nihongo* (Easy Japanese: EJ) has emerged as a new focus area in the field of language policy studies in contemporary Japan, where the number of expatriates is steadily increasing. EJ was introduced after the Hanshin-Awaji earthquake and was considered a potential solution to the problems concerning language services in the multilingual context that characterises Japanese society.

EJ aims to assist expatriates in Japan with limited Japanese language proficiency, by using basic level of grammar, fewer *kanjis* (Chinese characters), etc. However, the question remains whether EJ actually aids native Chinese speakers living in Japan, taking the reduced number of *kanjis* into consideration. The Chinese form the largest group of expatriates in Japan, constituting approximately 30% of the total expatriate population of approximately 2 million.

In order to address the above issue, this article analyses the similarities and differences of meanings in *kanjis* used in both Japanese and Chinese. The data comprise a vocabulary of 1,343 words that can be written in *kanjis*, sourced from the Japanese Language Proficiency Test (JLPT) Level 3, upper basic level. JLPT Level 3 is a rough standard of easiness for EJ. The data are classified into nine groups according to their form, origin, part of speech, and meaning. Several Japanese-Chinese and Chinese-Japanese dictionaries are referred to.

The key finding of this study is that a significant number of *kanjis* from JLPT Level 3 are shown to differ in meaning in Japanese and Chinese. For example, the percentages of the differences in meaning according to the parts of speech were as follows: noun, 34%; adjective, 27%; and verb, 26%. The above finding indicates that the percentages of differences in usage of *kanjis* in Japanese and Chinese are considered relatively high. In the other words, using many *kanjis* randomly might create confusion instead of aiding comprehension.

In conclusion, employing the vocabulary from JLPT Level 3 as data, this article suggests that using many *kanjis* in Japanese for the benefit of native Chinese speakers does not necessarily improve comprehension. Therefore, the use of *kanjis* in EJ should be selective. The following tasks are left for future research: studying a larger quantity of data and collecting opinions from native Chinese speakers.

* An Alternative Perspective of *Yasashii Nihongo* as a Language Service for Native Chinese Speakers: Focusing on Vocabulary Written in *Kanjis* (WOO Wai Sheng)

¹ 本稿は日本言語政策学会第12回研究大会にて発表したものに大幅な加筆修正を加えたものである。

** 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程

1 はじめに

1.1 研究背景および研究目的

言語政策の分野で日本における多言語化が問題となる時、「やさしい日本語」が取り上げられることがよくある。言語サービス²を今以上に多言語化しようとする場合、コストの問題や人材不足の問題があるため、様々な言語による多言語化の代案の一つとして「やさしい日本語」を活用する可能性が論じられるのである。例えば、『大阪市外国籍住民施策基本指針』では、既存の多言語化で対応できていない言語を使用する外国籍住民のために「やさしい日本語」の推進が図られている。

「やさしい日本語」とは、阪神淡路大震災以後に考案された日本語の表現法のことである³。日本語に不慣れな外国籍住民に情報を発信する際、難解な単語を分かりやすい単語に言い換え、漢字の使用を制限し、漢字を使用する場合はルビを振り、或いは複雑な文の構造を簡単にしたものである。母語や出身地域等の差異で「日本語に不慣れな外国籍住民」は様々であり、それぞれの必要とする「やさしい日本語」も多様なはずである。日本語には表意文字の漢字と表音文字のかなが使われており、この文字の特徴によって、「日本語に不慣れな外国籍住民」は漢字圏出身者⁴と非漢字圏出身者の二者に大別することができる。本稿では、そのうちの漢字圏出身者に特化した場合の「やさしい日本語」について考察する。

法務省のデータによると、2009 年末現在において登録している約 2 百万人の外国籍住民のうち、漢字圏出身者の中で代表的な中国籍だけでも 30%強を占めている。一般的には、漢字圏出身者に対しては、非漢字圏出身者とは異なり、むしろ漢字を積極的に使用するべきである、と考えられているが、果たしてそうなのであるか。これを検証するには、日本語と中国語⁵で、十分理解できる漢字と、理解できないものを分類し、それらがどのように分布しているかを調べる必要があると考える。

日中両言語に漢字が使用され、文字の面において「視覚的同一性」⁶がある。本稿は、この「視覚的同一性」を生かすべく、漢字の意味と形に注目して日中両言語における「漢字で表記される語彙」の差異を検討したのち、その異同に基づいて分類を行う。その際、先行研究の成果を踏まえた上で分類に「品詞」と「形」という新たな視点も加える。漢字圏出身者向けの言語サービスとしての新たな「やさしい日本語」に漢字を多用する場合、「漢字で表記される語彙」がどの程度理解されているかを考慮しなければならない。この理解度を提示することが本稿の主たる目的である。

² 言語サービスとは、主に地方自治体における日本語を含む多言語による情報提供のことをさす。詳細は河原 (2007) を参照されたい。

³ 詳細は弘前大学人文学部社会言語学研究室のホームページを参照されたい。

⁴ 本稿における漢字圏出身者とは中華人民共和国 (中国)、中華民国 (台湾)、東南アジアの華人社会などの出身者で、生活の中で漢字を用いる者を意味する。一方、非漢字圏出身者とは、これら以外の国 (地域) の出身者で、生活の中で漢字を用いない者のことをさす。

⁵ 比較基準の明確化と辞書等の参考資料の制約上、本稿における「中国語」は中華人民共和国の現代標準語とする。

⁶ 荒川 (1979) より借用した用語。

1.2 用語について－「漢字で表記される語彙」－

本稿における「漢字音読語」⁷は、音読みされる語彙のことをさし、「安全」のような主に漢字二文字から⁸なる語のことを意味する。他の名称として「字音語」、「漢字語」、「漢語語彙」、「漢字語彙」などがある。一方、「漢字訓読語」は、訓読みされる語彙のことをさし、名詞の「^{あたま}頭」や「^{あめ}雨」、または、動詞の「会う」、「書く」や形容詞の「安い」、「悪い」など、和語に漢字を当て、かなでその活用を表す語彙をさす。

「漢語音読語」と「漢字訓読語」の総称として、日本語の文章において漢字による表記が可能な日本語の語彙を「漢字で表記される語彙」⁹とする。

2 先行研究および言語サービスにその成果を応用する際の問題点

2.1 「やさしい日本語」と漢字圏出身者

「やさしい日本語」を漢字圏出身者と関連して論じるものとして、馬場・米田（2007）と鹿嶋（2007）が挙げられる。馬場・米田（2007）は、「やさしい日本語」の有効性を示すために、日本語を母語とする小学生と日本語を母語としない留学生¹⁰の両者を被験者として扱った実証実験の主要な結果を記したものである。その結果によると、日本語の表現をやさしくするために漢字ではなく、ひらがなを用いると、場合によっては漢字圏出身者には却って分かりにくくなるため、誤解を招く可能性があるとのことが明らかにされている¹¹。一方、鹿嶋（2007:122）は中国語の知識による類推が利かない漢字訓読語¹²に伴う誤解と、漢字音読語の日中両言語における意味の差異に起因する誤解、という2つの誤解があると指摘し、この2つの誤解が漢字圏出身者を悩ませると述べている。

上記の先行研究のいずれにおいても、非漢字圏出身者のみならず、漢字圏出身者にとって分かりやすい「やさしい日本語」の必要性は主張されているが、具体的に漢字圏出身者向けの「やさしい日本語」がどうあるべきかは言及されていない。

2.2 「漢字で表記される語彙」に関する先行研究

漢字圏出身者を対象とする日本語における漢字音読語の学習に注目した研究は数多く存在するものの、言語サービスではなく、主に言語教育に関連して論じられている。例えば、大村（1965）、文化庁（1978, 1983）、武部（1979）、李（1989）、樊（1993）、王（2007）などが挙げられる。一方、視点は異なるが、日本語母語話者向けの中国語－日本語の同形

⁷ 文化庁（1978, 1983）、武部（1979）では用語として使用されているが定義されていない。本稿は用語として借用し、定義を加えた。「漢字訓読語」も同様である。

⁸ もちろん、「駅」のように一文字からなる語、或いは「地下鉄」のような三文字の語も「漢字音読語」とする。

⁹ 本稿において、「重箱読み」と「湯桶読み」は「漢字音読語」と「漢字訓読語」のいずれにも属さないが、「漢字で表記される語彙」の範疇内には収まるものとする。

¹⁰ 漢字圏（53人）と非漢字圏（35人）を含む合計88人。

¹¹ 馬場・米田（2007:97）。

¹² 鹿嶋（2007）でいう「漢字訓読語」は「（手を）拭く」のことである。

漢字語の研究として、張（1987）や上野・魯（1995）などがある。これらの研究のうち、武部（1979）と張（1987）は文化庁（1978, 1983）で用いられる「S、O、D、N」¹³という分類をそのまま踏襲している。

2.3 先行研究を言語サービスに応用する際の問題点

上記の先行研究において、文化庁（1978, 1983）、武部（1979）、張（1987）は漢字音読語にしか注目しなかった。一方、李（1989）、樊（1993）、王（2007）では漢字訓読語を取り上げてはいるものの、その数は漢字音読語と比べると十分とはいえない。大村（1965）に関しては、漢字音読語と漢字訓読語の両方を対等に扱っているが、まだ研究の途上であり、不十分である。張（1987）と上野・魯（1995）に関しては、中国語からの視点のため、日本語からの視点のものとは分けて論じる必要がある。

漢字音読語の差異に関する研究成果を言語サービスとしての「やさしい日本語」に応用することはもちろん重要であるが、漢字音読語だけでは不十分と言わざるを得ない。漢字訓読語も漢字音読語に劣らず、「視覚的同一性」の働きによって文章の理解度が左右されることを考えると、漢字訓読語の重要性は決して看過すべきものではない。従って本稿では、漢字音読語に止まらず、漢字訓読語にも十分に注目し、両者を併せた「漢字で表記される語彙」を取り上げることとする。

3 研究方法

3.1 データについて

「やさしい日本語」の目安となる日本語能力試験¹⁴旧3級¹⁵までの語彙を本稿で扱う。分析データを旧3級の語彙に設定することに次の意義がある。第一に、旧3級が外国籍住民の実際の日本語能力を必ずしも反映していないと指摘する先行研究¹⁶はあるものの、本稿のように検証を行う先行研究は見当たらない。第二に、今まで「やさしい」と思われている「目安」への検証を行うことによって、「やさしい」語彙と「やさしくない」語彙の具体的な割合が明らかになる。

旧3級は日常会話のできる初級後半のレベルである。旧3級の語彙は1500語であり、その中から名詞¹⁷、形容詞・形容動詞、動詞を抽出して分類作業を行った。本稿では、漢字で表記しない、つまり「漢字で表記される語彙」に属さないカタカナ語は除外した¹⁸。

¹³ 「S、O、D、N」については、表1で詳述する。

¹⁴ 日本語能力試験は日本語を母語としない学習者の語学能力を測定し、認定する試験である。2009年に認定級が従来の4段階（4級～1級）から5段階（N5～N1）に変わった。認定内容等については「日本語能力試験『新旧試験の比較：認定の目安』」を参照されたい。

¹⁵ 新しい5段階の認定級の語彙等の出題基準が未公開のため、本稿は旧3級を扱う。これ以降、日本語能力試験旧3級を「旧3級」と略する。

¹⁶ 例えば鹿嶋（2007:121）がある。

¹⁷ 漢字で表記可能な代名詞と指示詞は名詞に含む。

¹⁸ 但し、「アフリカ」や「アメリカ」といった地名で漢字による表記が存在する語に関してはデータとして用いる。

その結果、1,343 語が対象となった。一方、漢字訓読語動詞の異字同訓は、同じ意味範囲に収まるものであれば、5 つまで単語ごとに別データとして扱った¹⁹。

3.2 分類法について

本稿における分類法は、大村 (1965) から大きな示唆を得たため、その分類法に部分的修正を加えているものの、ほぼそのまま踏襲した。大村の分類法を採用する前に、文化庁 (1978, 1983) の分類法を用いてみたが、漢字音読語のみであったため、漢字訓読語には不適切と見なした。但し、文化庁 (1978, 1983) の分類は分類の煩雑さを減らすための上位分類として十分に機能すると思われるため、本稿に採用することとした²⁰。この分類法について、大村 (1965)、文化庁 (1978, 1983)、と本稿との比較を表 1 に示す。

表 1 分類法の比較^{21, 22}

| 大村 (1965) | 文化庁 (1978, 1983) | 本稿 |
|--|---|--|
| (1) 全く同一、または極めて近いもの | S (Same) 意味が同じか、または、極めて近いもの。 | S1 |
| (2) 古代中国語と同じ。或いは、現代中国語では、一字では使われないが、理解できるもの。 | | S2 |
| (3) 中国語では他の意味も併せ持つもの。またその逆。 | O (Overlap) 意味が一部重なってはいるが、両者の間にずれがあるもの。 | O1 |
| (4) 似てはいるがかなり異なるもの。 | | O2 |
| (5) 中国語にはないが理解可能なもの。 | N (Nothing) 日本語の漢語と同じ漢字語が中国語に存在しないもの。 | N \bigcirc |
| (6) 中国語にはなく理解不可能なもの。 | | N \times |
| (7) 意味が異なるため誤解されやすいもの。 | D (Different) 意味が著しく異なるもの。 | D1 (左記(7)と D の細分化) D2 (左記(7)と D の細分化) |
| (該当なし。本稿の新設) | | N Δ |

本稿では、抽出した名詞、形容詞・形容動詞、動詞をその語源に従って「音読」と「訓読」と「音訓混合」に分けたのち、「視覚的同一性」を重要視するため、更に「同形」か「異形」のいずれかに二分した。「同形」とは、「漢字で表記される語彙」が日中両言語において全く同じ組み合わせを持つ語彙のことをさす。一方、「異形」とは、同じ組み合わせを持たない語彙のことである。なお、本稿では字体²³と字形²⁴の差異は考慮しない。

¹⁹ 例えば、「あう」→「合う」、「会う」、「逢う」、「遭う」、「遇う」が挙げられる。

²⁰ 文化庁 (1978) に対する批判は、例えば荒川 (1979) などあるが、分類法そのものに対する批判ではなかった。

²¹ 文化庁 (1983) では、「O」が「SD」になっている。これは名称の変更のみで、分類の内容の変更ではない。

²² アルファベットおよび数字と記号の意味は図 1 を参照されたい。

²³ 日本語の旧字体・新字体 (例: 賣・売)、中国語の繁体字・簡体字 (例: 賣・卖)。

²⁴ 例えば、(日→中) 点の有無「対・对」や突き抜けるか否か「汚・污」など。

「同形」か「異形」に二分するのは次のような理由があるからである。漢字圏出身者は日本語の「漢字で表記される語彙」を目にした時、「同形」は形が同じであるため、異なる言語であるということ意識しない。一方、「異形」は形が同じではないため、異なる言語であると意識する。「漢字で表記される語彙」を「同形」か「異形」に二分したのち、表2のように更なる細分化を行った。

表2 本稿における「漢字で表記される語彙」の分類法

| 「漢字○読語」：品詞 | | | | | | | | |
|------------|----|----|----|----|----|----|---|---|
| 同形 | | | | | | 異形 | | |
| S | | O | | D | | N | | |
| S1 | S2 | O1 | O2 | D1 | D2 | ○ | △ | × |

上記の表2の「同形」と「異形」は、漢字の組み合わせの差異にのみ注目した分類で、意味の領域には踏み込んでいない。いわば「形の分類」である。一方、アルファベットの段より下は、漢字の組み合わせの差異ではなく、それぞれの語彙の意味的差異による分類である。いわば、「意味の分類」である。先行研究の多くは、「形の分類」もみられるが、「意味の分類」が主となっている。本稿のように、「意味の分類」の他に、品詞と形による分類を加えることによってより複眼的に理解できる漢字と、理解できないものがどのように分布しているかを知ることができる。

| |
|---|
| S1：日中両言語においてほぼ同形同義。(音読名詞例：以下、訓読名詞例：味) |
| S2：同形で意味領域は同じだが、中国語では古典の用法に近い固い表現。または、同形で現代標準中国語では、一字(単独)では用いないが、漢字圏出身者が見れば、意義内容だけは理解できるもの。(音：～時、訓：足) |
| O1：同形で日本語と同じ意味を持つが、中国語では同時に他の意味を併せ持つもの。或いは逆に中国語では日本語の持つ意味領域の一部分しか持たないもの。(音：以上、訓：内) |
| O2：同形で意味的には類似だが、日本語と中国語では、意義内容または語感がかなりずれるもの。(音：講義、訓：男の子) |
| D1：同形であるが、日本語と中国語ではその意味が著しく異なり、漢字圏出身者に容易に誤解を生じさせるもの。(音：奥さん、訓：お菓子) |
| D2：同形であるが、日本語と中国語ではその意味が著しく異なるうえ、古典に限った表現で、現代では用いられないため、理解がほぼ不可能なもの。(音：挨拶、訓：鞆) |
| NO：異形で日本語の造語構成を分解再構成し、類推によって漢字圏出身者にもほぼ正確に理解できるもの。(音：急行、訓：昨日) |
| N△：異形で日本語の造語構成を分解再構成し、類推によって漢字圏出身者にも大体の意味を理解できるが、正確さに欠けるもの。(音：映画、訓：売り場) |
| N×：異形で日本語の造語構成を分解再構成しても、類推によって漢字圏出身者には理解できないもの。(音：運転手、訓：受付) |

図1 「S1、S2、O1、O2、D1、D2、NO、N△、N×」の意味

本稿では、漢字圏出身者の漢字で表記される語彙に対する理解度を分類の種類によって示すと図2のようになる。

S1>S2>NO>O1>O2>N△>D1>D2>N×

図2 分類の種類による理解度

誤解を招かずに理解できる語彙、或いは誤解を招く可能性が最低限に抑えられた理解可能な語彙は分類 S1、S2、NO、O1 の4分類までであると考え。その理由は次の通りである。

まず、S1 は日中両言語においてほぼ同形同義だからである。次に、S2 は日中両言語において同形で意味領域は同じであるが、中国語では古典の用法に近い固い表現、或いは現代標準中国語では、単独では用いないが、漢字圏出身者が見れば、意味内容だけは理解できるからである。NO は日中両言語において異形で日本語の造語構造を分解再構成し、類推によって漢字圏出身者にもほぼ正確に理解できるからである。最後に、O1 は日中両言語において同形で日本語と同じ意味を持ち、中国語では同時に他の意味を併せ持つもの、或いは逆に中国語では日本語の持つ意味領域の一部分しか持たないものであるが、代表的な意味が同じ場合が多いからである。O1 以降の分類は、日中両言語の間に意味的になりにずれがあるものであったり、意味が著しく異なったりするものであるため、本稿ではこれらの分類に属する語彙を理解可能な語彙としては認めない。

3.3 分類作業に用いる辞書について

実際の分類作業においては、次の辞書を使用した。まず、「同形」か「異形」を判断するために、漢語大詞典出版編纂委員会『現代漢語大詞典』と愛知大学中日大辞典編纂処『中日大辞典』を使用した。一方、意味の分類作業を行う際には、上記2冊の他に、新村編『広辞苑』を使用した。更に、特に一字の漢字訓読語を分類するにあたり、杉本ほか『外研社—三省堂 日漢—漢日詞典』と孫『現代漢語学習詞典』を用いた。

4 漢字で表記される語彙—語源、品詞、形からその理解度をみる—

4.1 分類の結果

語源別、品詞別、形別における各分類の結果と例を表3から表6で示す。理解可能な語彙を太枠で囲む。表の最下段の数字は当該分類に属する語の総数を示す。

表3 漢字音読語 (488)^{25,26}

| 名詞 (404) | | | | | | | | |
|--------------|----|----|------|------|----|----------|------|----|
| 同形 (292) | | | | | | 異形 (112) | | |
| S | | O | | D | | N | | |
| S1 | S2 | O1 | O2 | D1 | D2 | ○ | △ | × |
| 亜細亜 | 駅 | 意見 | (運転) | 一番 | 挨拶 | 医者 | 阿弗利加 | 案内 |
| 164 | 20 | 59 | 13 | 35 | 1 | 28 | 40 | 44 |
| 形容・形容動詞 (26) | | | | | | | | |
| 同形 (21) | | | | | | 異形 (5) | | |
| S1 | S2 | O1 | O2 | D1 | D2 | ○ | △ | × |
| 安全 | | 綺麗 | 丁寧 | (大勢) | | | | 残念 |
| 6 | 0 | 7 | 1 | 7 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 動詞 (58) | | | | | | | | |
| 同形 (45) | | | | | | 異形 (13) | | |
| S1 | S2 | O1 | O2 | D1 | D2 | ○ | △ | × |
| 運動 | 下宿 | 安心 | 運転 | 遠慮 | 挨拶 | 退院 | 紹介 | 案内 |
| 20 | 1 | 12 | 4 | 7 | 1 | 1 | 4 | 8 |

表4 漢字訓読語 (826)

| 名詞 (355) | | | | | | | | |
|---------------|-----|-----|-----|-------|----|---------|------|------|
| 同形 (277) | | | | | | 異形 (78) | | |
| S1 | S2 | O1 | O2 | D1 | D2 | ○ | △ | × |
| 脚 | 間 | 後 | 青 | 嘘 | 砲 | 明後日 | 彼方 | 赤ん坊 |
| 86 | 120 | 22 | 7 | 41 | 1 | 12 | 31 | 35 |
| 形容・形容動詞 (115) | | | | | | | | |
| 同形 (109) | | | | | | 異形 (6) | | |
| S1 | S2 | O1 | O2 | D1 | D2 | ○ | △ | × |
| 浅い | 赤い | 温かい | 青い | (上手い) | | | 真っ直ぐ | 面白い |
| 44 | 36 | 11 | 3 | 15 | 0 | 0 | 2 | 4 |
| 動詞 (356) | | | | | | | | |
| 同形 (335) | | | | | | 異形 (21) | | |
| S1 | S2 | O1 | O2 | D1 | D2 | ○ | △ | × |
| 遇う | 明く | 合う | 拳がる | 謝る | | 取替える | 思い出す | 片付ける |
| 72 | 154 | 43 | 13 | 53 | 0 | 2 | 3 | 16 |

²⁵ 括弧内の数字は語の合計を示すものである。以降同様。²⁶ 日中両言語において、当該する語が異なる品詞に属する場合は括弧で囲んで示す。

表5 漢字音訓混合語：重箱読み (14)

| 名詞 (12) | | | | | | | | |
|-------------|----|----|----|------|----|---------|----|------|
| 同形 (1) | | | | | | 異形 (11) | | |
| S1 | S2 | O1 | O2 | D1 | D2 | ○ | △ | × |
| 毎年 | | | | | | 毎朝 | 茶色 | 気持ち |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 8 |
| 形容・形容動詞 (2) | | | | | | | | |
| 同形 (1) | | | | | | 異形 (1) | | |
| S1 | S2 | O1 | O2 | D1 | D2 | ○ | △ | × |
| | | | | (上手) | | | | (駄目) |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |

表6 漢字音訓混合語：湯桶読み「名詞」(15)

| 同形 (3) | | | | | | 異形 (12) | | |
|--------|----|----|----|------|----|---------|----|----|
| S1 | S2 | O1 | O2 | D1 | D2 | ○ | △ | × |
| | | 場所 | | (火事) | | 朝ご飯 | 彼女 | 友達 |
| 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 4 | 3 | 5 |

4.2 語源から理解度をみる

まず、語源による旧3級の語彙の内訳をみる。多い順に並べると、漢字訓読語が826語(61.50%)、漢字音読語が488語(36.34%)、漢字音訓混合語「重箱読み」が14語(1.04%)、「湯桶読み」が15語(1.12%)という割合である。

次に、上述の順に各々の漢字で表記される語彙の理解度²⁷をみる。漢字訓読語は72.88%(602語)、漢字音読語は65.16%(318語)、漢字音訓混合語「重箱読み」が21.43%(3語)、「湯桶読み」が33.33%(5語)である。

4.3 品詞から理解度をみる

品詞による旧3級の語彙の内訳は、多い順に並べると、名詞が786語(58.53%)、形容・形容動詞が143語(10.65%)、動詞が414語(30.83%)である。上述の順に各々の漢字で表記される語彙の理解度をみると、名詞は66.03%(519語)、形容・形容動詞は72.73%(104語)、動詞は73.67%(305語)である。

4.4 形から理解度をみる

形による旧3級の語彙の内訳は、同形が1084語(80.71%)、異形が259語(19.29%)である。各々の漢字で表記される語彙の理解度は、同形が81.00%(878語)、異形が19.31%(50語)である。

²⁷ S1、S2、NO、O1に属する語の割合をいう。以降同様。

4.5 考察

以上、旧3級の語彙の漢字で表記される語彙のうち、S1、S2、NO、O1に属する理解可能な語彙の割合を語源、品詞、形の順に検討してきた。以下、理解可能な語彙の割合を総合的に考察する。

まず、語源からみると、漢字訓読語は理解度が最も高かった。漢字訓読語は中国由来の漢字音読語に比べると理解度が低いであろうと一般的に思われているが、本稿の分析では異なっていた。これは、漢字音読語にある理解不可能な異形の語(NΔとN×に属する語)の割合の高さが関係する。NΔとN×に属する語は漢字音読語では約21% (101語)、漢字訓読語では約11% (91語)を占めており、音読であっても中国語の知識では類推できないため、理解度を低下させることになる。

次に、品詞からみると、名詞は最も大きな割合を占めているが、理解度が他の品詞より低い。上記の語源と同様、名詞にあるNΔとN×に属する語の割合の高さが関係する。NΔとN×に属する語は形容・形容動詞と動詞のいずれも10%以下に対し、名詞が21.25% (167語)を占めている。本稿では形容・形容動詞と動詞の語尾変化を考慮せずに²⁸、漢字で表記される部分のみ注目した。語尾変化が伴う場合、理解度がどう変化するのかも考慮せねばならないが、「漢字で表記」の範疇を越えているため稿を改めて論じたい。

理解度を全体的にみると、漢字音訓混合語と比べて、漢字音読語と漢字訓読語のいずれも理解度が高い。しかし、漢字音読語のうち約34%、漢字訓読語のうち約27%が漢字圏出身者にとって理解できない語彙であるということに注目すべきである。同じことが品詞と形(同形の語に限る)においても言える。異形の語については、漢字音読語、漢字訓読語²⁹のいずれにおいても、約19%~28%という、低いとはいえない割合を占めている。しかも、その中に理解可能な語彙が多いとはいいがたい。また、漢字音訓混合語における異形の語は80%以上という非常に高い割合を占めており、理解可能な語彙は僅かである。このことから、漢字圏出身者向けの言語サービスとしての「やさしい日本語」に漢字を用いる際、異形の語に関しても注目に値する点として留意しなければいけない。

一方、本稿で採用した大村(1965)における理解度はどうであろうか。大村(1965:73)は、日中両言語において、意味的にかなり近いもの(分類1と2)、ずれがあるもの(3,4,5)、全く違うもの(6,7)がそれぞれ約1/3であると述べている。語彙数等の違いはあるが、「全く違うものが1/3」という結果は、本稿の「理解できない語彙が約3割」であるという結果に一致している。

この理解できない語彙の3割という数値は一見それほど大きな値とは感じられないかもしれない。しかし、その3割に属する語がときに誤解を招きかねないものであるという事実は無視できない。表7は、「中国語で相談出来る」という一文において誤解がいかにか起こりうるかを示したものである。

²⁸ 語尾変化は漢字で表記されないためである。

²⁹ 漢字訓読語の場合、名詞以外は異形の語の割合が低いため除く。

表7 誤解の例

| 漢字で表記される語彙 | 中国語 (で) | 相談 | 出来る |
|------------|-----------------------|---------------------|------------------|
| 分類 | 異形：N△ | 異形：N△ | 同形：D1 |
| 説明 | 対応する中国語は「漢語」か「中文」である。 | 「対談」という意味と類推されてしまう。 | 「出て来る」と理解されてしまう。 |

4.6 まとめ

本稿は、日中両言語における文字的「視覚的同一性」があることから、言語サービスの中に漢字を多く用いた方が漢字圏出身者にとっては理解度が増すであろうという一般的な考え方が果たして妥当かどうかを検証することを目的とする。そのため、「やさしい日本語」の目安となる旧3級までの漢字で表記される語彙を分析し、分類を行った。本稿で行った分析から、漢字圏出身者向けの言語サービスとしての「やさしい日本語」に漢字を多用することが必ずしも理解度を増すことにつながるとは限らないことが言える。それは、理解できない漢字で表記される語彙の割合が約3割を占めており、決して低くはないためである。従って、漢字圏出身者向けの言語サービスとしての新たな「やさしい日本語」に漢字を多用する場合、漢字圏出身者にも理解できない漢字があることに留意する必要がある。

5 今後の課題

まず、語彙に関する課題について述べる。災害時はともかく、平常時における言語サービスとしての「やさしい日本語」の目安として、旧3級までの語彙が果たして有効であるかどうかは更なる議論が必要であるが、本稿の範囲を超えているため、今後の課題とする。次に、本稿では「やさしい日本語」の目安となる旧3級までの語彙を分析して分類を行ったが、より上級の語彙（旧2級6,000語、旧1級10,000語）も分析し、旧3級の結果と比較する。また、本稿では名詞・形容・形容動詞、動詞に絞って分析と分類を行ったが、他の品詞類を増やすことも重要であろう。最後に、これらの課題を克服したのちに例文³⁰を作成し、日本語を母語としない外国籍住民³¹に聞き取り調査を行い、フィードバックを収集し、改善を試みたい。

参考文献

- 愛知大学中日大辞典編纂処『中日大辞典』増訂二版 大修館書店、1987
 荒川清秀「中国語と漢語—文化庁『中国語と対応する漢語』の評を兼ねて—」『愛知大学文学論叢』62号、愛知大学文学会、1979、pp.1(388)-28(361)
 上野恵司・魯曉琨『おぼえておきたい日中同形異義語300』光生館、1995

³⁰ 例文の中で用いられる前後の漢字によって全体的な理解度を上げる（下げる）ことも考えられる。

³¹ もちろん、日本語母語話者が「やさしい日本語」の受け皿になる可能性は考えられるが、本稿では日本語非母語話者にのみ焦点を当てる。

- 王永全・小玉新次郎・許昌福『日中同形異義語辞典』東方書店、2007
- 大村益夫「中国人・朝鮮人に対する漢字語彙教育について」『講座日本語教育』第1分冊、早稲田大学語学教育研究所、1965、pp.61-77
- 鹿嶋彰「『やさしい日本語』を使う—よりよい『やさしい日本語』を目指して—」「やさしい日本語」研究会「『やさしい日本語』が外国人の命を救う—情報弱者への情報提供の有り方を考える—」弘前大学文学部社会言語学研究室、2007、pp.119-125
- 河原俊昭「外国住民への言語サービスとは」河原俊昭・野山広『外国住民への言語サービス』明石書店、2007、pp.10-27
- 漢語大辞典出版編纂委員会『現代漢語大辞典』漢語大辞典出版社、2000
- 国際交流基金・日本国際教育支援協会『日本語能力試験出題基準 改訂版』凡人社、2002
- 杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘『外研社—三省堂 日漢—漢日辞典』外語教学与研究出版社、2002
- 武部良明「漢字国民に対する中級漢字教育」『日本語教育』37号、日本語教育学会、1979、pp.13-23
- 中国社会科学院語言研究所詞典編輯室『現代漢語詞典』商務印書館、1979
- 張淑榮『中日漢語対比辞典』ゆまに書房、1987
- 唐磊・翟東娜『現代日中常用漢字対比詞典』北京出版社、1996
- 孫全洲主編『現代漢語學習詞典』上海外語教育出版社、1995
- 新村出編『広辞苑』第五版、岩波書店、1998
- 馬場康維・米田正人「『やさしい日本語』の有効性を検証する—実験の結果と検証—」「やさしい日本語」研究会「『やさしい日本語』が外国人の命を救う—情報弱者への情報提供の有り方を考える—」弘前大学文学部社会言語学研究室、2007、pp.87-99
- 樊婷婷『中日漢字比較及用法』河南大学出版社、1993
- 文化庁『中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局、1978
- 『漢字音読語の日中対応』大蔵省印刷局、1983
- 李聚会『日語漢字詞彙分類辞典』電子工業出版社、1989

電子資料（全ての最終アクセス日が2010年9月22日である）

大阪市外国籍住民施策有識者会議「『大阪市外国籍住民施策基本指針』の実現に向けた取組みについて」（提言）

[http://www.city.osaka.lg.jp/shimin/cmsfiles/contents/0000021/21716/teigen\(honbun\).pdf](http://www.city.osaka.lg.jp/shimin/cmsfiles/contents/0000021/21716/teigen(honbun).pdf)

日本語能力試験「新旧試験の比較：認定の目安」

<http://www.jlpt.jp/about/pdf/comparison01.pdf>

弘前大学人文学部社会言語学研究室「やさしい日本語」

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ3mokuji.htm>

法務省入国管理局 平成21年末現在における外国人登録者統計について

http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00005.html